『怪物くん』における「対」と「共通点」とは何か？メッセージを作品にこめた意味は？

藤原 太郎

「カーイカイカイ カーイカイカイ 愉快 痛快 怪物くんは」という歌詞でおなじみの『怪物くん』という作品をご存じだろうか？怪物ランドから人間界へやって来た不思議な少年怪物くん(本名：怪物太郎)やドラキュラ、フランケン、狼男などを初めとした怪物と、人間のヒロシ君が巻き起こす騒動を描いた物語ですね。この作品には「対」と「共通点」があるのではないかと思いこの 2 つに着目したい。それが何かについては後ほど述べようと思う。そして、この作品の作者である藤子不二雄 A 先生が「怪物くん」を通して読者に読み取ってほしいメッセージを考えるべく今回このサークルの会誌において述べようと思う。

注意⚠️！！筆者はこの作品に対してあまり知識がありません。マンガも読んだこともありませんし、怪物くんの公式がユーチューブで公開している話を少し見たことがある程度です。〔あたたかい目で見守ってください！！！〕まずは言葉の意味から説明しようと思います。と言ってもそのままの意味なんですがね。「対」というのは反対になっているという意味で、「共通点」というのは同じであるという意味ですね。何と何を比較するのでしょうかね？そう、怪物くんとヒロシ君のことについて色々比べていこうと思います。

この作品における「対」には 2 つの意味があると思う。1 つめは「族」だと思う。ヒロシ君は人間であるのに対して、怪物君は怪物ですね。人間の対義語を調べたところ、「生」対「死」、「善」対「悪」、「愛」対「無関心」などと「人間」の概念の中でも対義語がありよく分からないというのが「Yahoo!知恵袋」の答えではあった。しかし、人間は死後に幽霊（亡霊）になって彷徨うというのを聞いたことはないだろうか。有名な例として、戦国時代の有名な合戦の 1 つに 1600 年に発生した関ヶ原の戦いというのがある。この戦いに限らないが戦争では多くの人が犠牲となり亡くなる。この世に未練があってか合戦があった場所では、亡霊が多く存在するという報告がよくあるらしい。そして、合戦から 400 年が経過した 2000 年頃に亡霊がある日一斉に消えるというようなことがあったそうだ。ちなみに、このことから幽霊（亡霊）は 400 年くらい生きることができると考えられているそうだ。では、怪物の類義語を「類語辞典・シソーラス・対義語 - Weblio 辞書類語辞典」で調べてみよう。すると、亡者・幽霊・亡霊・妖怪などとでてくる。人間が死後、幽霊（亡霊）になるという理論を持ってくるのであれば、「怪物」という言葉は「人間」の対義語だと言えるだろう。

「族」についてだが、人間や怪物と考えなくても彼らを仮に人間のように考えてもこの件は「対」になっていると考えられる。どういうことか。ヒロシ君は髪が黒く基本的に日本語を話しているという点から日本人を表現していると考えられる。一方で、怪物くんや彼のガールフレンドである怪子ちゃんは髪の毛が黄色であるという点から外国人(特に欧米人)を表現していると考えられる。日本は一般的に東洋に分類されて、欧米は西洋に分類される（定義によって違う場合もありますが今回はこう解釈してください)。このことからも、怪

物くんを人間と見立てた場合にも東洋と西洋といったように見事に「対」になっていると言える。

２つめは「貧富」だと思う。一番最初に述べた歌の続きを歌ってほしい（分からない人は歌詞を調べてください)。怪物ランドのプリンスだと述べられている。このことからも分かる通り、怪物くんは王子様であると分かり、それは怪物大王の息子であることを意味するんですね。だから、彼はこの世で 1,2 位を争うくらい大金持ちだと考えられます。実際、毎日ラーメン 100 杯出前をとると軽々しく宣言しています（「いそうろう怪物ガメルくん」1980/10/7 放送より)。ラーメン一杯の平均価格調べたところ、1975 年（昭和 50 年）には、211 円、1985 年（昭和 60 年）には、383 円らしいですね。この話が放送された 1980 年のラーメン 1 杯の値段は 300 円くらいと考えられるので、彼は毎日 3 万円を誰かに渡すことくらいたやすいものだと言っていたのですね。また、冒頭で述べた、ドラキュラ、フランケン、狼男は怪物くんに雇われていると考えられる。狼男の特技は料理であり怪物くんたちに毎日料理を振舞っている。そんな彼が毎月給料 1 万円減ると発言していたことがあった（「保険怪物モンストロ」1981/12/1 より)。召使いを 3 人も雇っている！さすが大王の子どもであると言えますね。

一方で、ヒロシ君はどうでしょうか。いかにもボロそうなアパートに住んでいます。そして、両親は亡くなっていて姉と一緒に暮らしているという設定があります。どれほど貧しいかということは作品で具体的に描かれていないですがいずれにせよ貧しいことは確かです。日本には、生活保護法というのがあり所得が低く生活が困窮している人たちを援助するという法律がありますね。こちらの法律は 1950 年に施行されているので、今回私が書いている怪物くんのアニメが放送されている 1980 年代には既に生活保護という制度がありますね。だから、ヒロシ君と姉は生活保護受給者である可能性は高いと言えるでしょう。ちなみに、これを受給できる条件として世帯収入が 13 万円以下であることという項目があります。ですから、ヒロシ君と彼の姉は月収 13 万円ほどで生活していると考えましょう。すると、怪物くんと財産を比較した場合に大きな差があるということは言うまでもないでしょう。

次に「共通点」について考えてみようと思う。この作品における「共通点」はずばり「親との距離」であると思う。どういうことなのだろうか。困った時に助けてくれたり、悪いことをした時に叱ってくれる親がそばにいないということですね。怪物くんの場合を詳しく見ていこう。怪物くんの母親は、「幻の園(おそらく怪物ランドのどこかにあると思われる)」という場所にいるらしいですね。怪物ランドの掟として、正式に王位継承するまでは母親と一緒に暮らしてはいけないというのがあるらしく彼自身も母親がいるということを知らなかったそうですね。このことから彼と母親の距離は遠くにいると言えますね。次に怪物くんの父親について見ていきましょう。父親は、怪物大王であり怪物ランドの最高権力者ですね。まぁ、つまり大王ということですね。そして、父親は怪物ランドにいるのであって怪物くんがいる人間界にいないので父親とも距離が離れていると言えますね。

そして、そんな両親が近くにいない彼の世話をするのが、ドラキュラ、フランケン、狼男と言えますね。

ヒロシ君の場合はどうでしょうか。両親は亡くなっていて姉と一緒に暮らしているという設定があると先ほど述べた通りです。彼もまた、両親との距離が離れていると言えるでしょうね。そして、世話をしてくれるのが姉と言えますね。はい、両親と身近に触れ合うことができないが、1 人ではなくお世話してくれる人がいるという点が怪物くんとヒロシ君で「共通点」と言えますね。また、人は亡くなったら天国に行くというような考えがあり、天国は空の上にあるというようなことを言われますね。そして、怪物くんたちが怪物ランドらしき場所に行くシーンがたまに見られます。飛んで行くという点から怪物ランドも空の上にあると言えそうですね。この点から、彼らの両親は遥か彼方「上」にいるという点も「共通点」ですね(ヒロシ君の両親が天国に行っていればという話ですがね、まぁでもそう信じたいですね)。

2 人が親との距離感について考える話として、「パックといっしょに夢の旅」（1981/10/20 放送）というのがあります。この話では、怪物大王が息子のことを心配してパックといういい夢を見ることができる怪物と息子宛ての手紙を送ります。手紙には最近全然会ってないし、手紙もくれないからパックを使って父親の夢を見なさいということが書かれていました。これを見た怪物くんは何を思ったのか親父の夢は見ないというような発言をしました。そして、ヒロシ君がこの怪物の存在を知ります。すると、彼は亡き母さんの夢が見たいとパックに頼みます。すると、涙を流しながら夢の中で母親と再会できて感動しました。これを見た怪物くんも親父の夢を見ようと宣言するのでした。この話は、「共通点」を描いた珍しい話と言えるでしょう。ヒロシ君の家と怪物くんの屋敷の両方が登場する話を見るとこの作品は「貧富」が強調されているように思えるから「対」の方が目立ってしまうように感じます。

では、この作品の作者である藤子不二雄 A 先生が読者に伝えたかったことはなんなんなのでしょうか。まずは、「共通点」の方から考えていきましょう。先生自身のことを少し調べてみよう。先生は富山県氷見市の出身で、実家は 600 年以上続くお寺だそうです。そして父親は、実家のお寺の 49 代目住職に当たるそうで、先生が 10 歳の時に亡くなっているそうです。このことから、先生は幼い頃に父親との距離が遠くなったということが分かりますね。この時の体験というか感じたことというのをこの作品のメッセージとして盛り込んだ可能性は高いと考えられますね。

また、この作品は「少年画報」、「週刊少年キング」という雑誌で 1960 年代に連載されていたそうです。これらの雑誌の対象年齢は調べましたが特に意見は書いていませんでした。ところが、1980 年代になると「小学二年生」、「小学三年生」、「小学四年生」、「小学五年生」といったドラえもんを連載したことでも有名な雑誌にリバイバルとして掲載されたことが分かりました。このことから、「怪物くん」の対象年齢は小学生 2 年生〜5 年生くらいと設定して先生が描いたと推測できますね。そして、小学生 4,5 年生といえば 10 歳の子

がいる学年であり、これは先生の父親が他界された時期もこのどちらかだと言えますね。まぁつまり、先生の親が他界された当時のA先生の年齢とこの作品の対象年齢が一致しているよねぇということです。このことからも、先生自身が親を亡くしたという経験を盛り込んだという可能性は高いと考えられますね。

「共通点」として述べていることが他の藤子不二雄A先生作品でもメッセージの1つとして表現されているような気がします。そうそれは、「忍者ハットリくん」です。どういうことなのでしょうか。この作品の主要人物の1人にケムマキ・ケムゾウがいます。顔にニキビあとがあり、黒いネコこと影千代（かげちよ）とよく一緒にいる少年のことです。ケムマキ君も親と距離が離れているのです。彼は甲賀の少年忍者です。忍者であるということを他人にひた隠しにしながら東京で1人暮らししています。小学生ながら凄いですね。彼の母親はおそらく甲賀(滋賀県)にいると考えられます。そして、東京と滋賀は約350km離れているそうです。この世と天国や怪物ランドといったように別世界とまでいかなくとも、小学生ながら親との距離が350km離れていれば、十分に遠いと言えますね。以上の点から、「忍者ハットリくん」にも「怪物くん」の「共通点」のメッセージが盛り込まれていると言えますね。だから、藤子不二雄A先生が複数の作品を通して親との距離感という問題について述べている可能性はあると言えるでしょうね。

他にも、小学生4,5年生になると自我というのが芽生え始めてくる、いわゆる、思春期や反抗期の前ぶれでもあると思います(個人差がありもっと遅い人もいるはずですが)。この時期になると多かれ少なかれ親に反抗して喧嘩することもあると考えられます。実際、私も母親と考え方が違って大喧嘩して、反抗することがよくありました。このような時に、親なんていなくなればいい、親と離れたい、自分は1人でここまで育ってきたなどと親のことを悪く思うことがあると思います。そのような時に、親が死ねばいいと思ってはいけないということをこの作品が思い出させる役割があるのではないかと思います。それは、さきほどから何度も言っていますが先生が小さい頃に親を亡くしたという辛い経験からきていると思います。他の視点から考えると親からの距離が遠くても、ヒロシ君も怪物くんは切磋琢磨しながら仲良く明るく日々を生きているように感じます。このことから、思春期や反抗期(いやぁそれ以降の人生で歩むありとあらゆる課題も)同じような仲間をみつけることで、お互いの辛い境遇などを共有しながら明るく日々を生きなさいという「人生」に対するメッセージがこもっているのかもしれませんね。小学生2年生などが読むと「〇〇怪物」だと恐竜やポケモンを見て名前を覚える感じで楽しめて、これから思春期や反抗期になるにあたって親のことを大切にしなければならないという心得を、さらにはそのはるか先の人生に対する考え方も教えてくれる実に幅の広い教科書だと思います。

次に「対」の方を考えましょう。まずは、「貧富」の方からいきましょう。なぜ藤子不二雄A先生がこの作品においてこのテーマのようなことを盛り込んだのでしょうか？それは、A先生自身におきた人生の変化と(後の)藤子・F・不二雄先生との出会いがあったからではないかと考えられるでしょう。先ほども述べた通り、A先生はお寺の住職の子どもで

す。だから、何不自由ない生活を送っていたと言われています。しかし、父親がなくなるとお寺を出ていかなくてはならない状況になり、伯父を頼って高岡市に転居し高岡市に住む伯父さんを頼って転居したそうです。そして、高岡市の小学校で(後の)藤子・F・不二雄先生と出会ったという経緯があります。そして、藤子・F・不二雄先生もお父さんがいない家庭で育ったということがあり、生活が困窮していたと言えるでしょう。このように、高岡に来る前の生活が豊かだったA先生自身と、高岡に来て生活に困窮していたA先生自身や高岡で出会った同じような状況だったF先生というこれら2つの経験から怪物くんにおいて「貧富」というものをテーマにしたと言えるのかもしれないですね。

「族」の方も考えましょう。このことを作品のテーマとして盛り込んだと考える上でF先生の存在があると言えるでしょう。F先生とA先生が昔は2人で同じ作品を描いていたということを皆さんは知っているでしょうか？1960年代から連載が開始された『オバケのQ太郎』が有名な例ですね。藤子・F・不二雄先生と藤子不二雄A先生という呼び名は1987年「藤子不二雄」にコンビが解散した後に名付けられたものです。さて、このことだけに限らず考えが違うから解散をするということは何事にもあると言えるでしょうね。2人の場合は何が違ったのでしょうか。マンガの描き方の違いがあると言えるでしょうね。A先生は筆圧が強く原稿が「黒く」なる傾向にあったそうです。一方で、F先生は筆圧がそこまで強くないことから原稿が「白く」なる傾向にあったそうです。また、「黒く」と「白く」というのは作品にも表れているそうです。A先生の作品に、「笑ゥせぇるすまん」というのがあり、ブラックユーモアというか登場人物を不幸のどん底に追い込むというもの。一方で、F先生の一番有名であろう作品に「ドラえもん」があり、ひみつ道具を使いたいていの場合多くの人を幸せにしようとすることからホワイトな感じと言えますね。このことから、A先生のことを「黒の藤子」、F先生のことを「白の藤子」と呼ぶ読者もいたそうです。この「黒」と「白」という考えと「族」を関連付けて何か言えないでしょうか。そう、「黒人」と「白人」ですね。「族」の説明をする時に、ヒロシは東洋で、怪物くんは西洋で「対」になっていると述べました。『怪物くん』という作品において、ヒロシ君と怪物くんを「族」という観点で「対」に描くにあたって、A先生は「黒の藤子」と「白の藤子」の件を思いながら描いた可能性は高いと言えるでしょう。

最後にまとめて終わりにしましょう。『怪物くん』は藤子不二雄A先生が単独で描いた作品です。しかし、この作品を描くにあたって藤子・F・不二雄先生との思い出を参考にして描いたことは間違いないと私は考えます。1987年に解散した後も2人ともペンネームに「藤子」と「不二雄」という文字が入っていることから、解散する前はよりいっそう仲良しだったと言えるでしょう。全く考えが違って2度と会いたくないほど仲が悪くなったなら全く違った名前になると考えるのが妥当でしょう。実際、藤子不二雄A先生はマンガ家として尊敬する人を聞かれたら、藤子・F・不二雄先生と手塚治虫先生と答えていたことからコンビ解散後も2人は仲良しだったと言えると思います。そう、「怪物」と「人」といったような明らかに「対」になっていても、「親との距離」という「共通点」があっ

たからヒロシ君と怪物くんが仲良しなことから、どんなに馬が合わないと思っても共通することはあるから、誰とでも仲良くなれる可能性があるという、「大人」にも「子ども」にも共通する「人間関係」における問題を伝えることがこの作品の一番のメッセージなのかもしれないですね。